

大阪の地場産業 薄物鏡の総合メーカー



株式会社クヌギザ

銀引き薄物鏡 国内トップシェア

毎日目にしているのに、原料や製造過程を知らない人が多いもの。まじまじと見る機会が多いため、少しの傷も許されないもの。女性のカバンには大抵1枚以上入っているもの。クヌギザが作っているのは、身近にあるにもかかわらず、注目されることのない「鏡」だ。

鏡は、ガラスに銀や反射金属を貼り付けて作られる。製法は大きく分けて二つ。ガラス面に銀膜を薄く吹き付けて貼り付ける「銀引き製法」と真空タンク内でガラス面に放射金属膜を蒸着させる「真空メッキ製法」。同社はより高品質にできる「銀引き製法」を採用し、1〜2mmほどの厚さの「薄物」と呼ばれる鏡のみを手がけている。薄物は主にコンパクト等の化粧品用ミラーとして使われ、小物鏡の70〜80%のシェアを獲得している。

大阪の地場産業「薄物鏡」 1日30000m²を製造

「薄物鏡は、生野区や平野区で多く作られ、昔は界限におよそ100以上の工場があったそうです。しかし、30年ほどの間に衰退してしまいました。衰退の原因は様々ですが、機械化の波に乗れなかったことが大きいのではないのでしょうか」と梶座寛之社長は話す。銀引き鏡を作る工場は、国内では6か所ほどに減ってしまっただけでなく、製品への機械化に成功。製鏡から切断、面取り

加工、製品組み立てまで一貫して手がける体制を整え、国内トップシェアを誇る工場へと成長を遂げた。

「機械化が進み、大量生産にも対応できるようになりました。今では1日30000m²くらいの鏡を製造しています。作った鏡をカットして、製品組み立てまで対応しているのも強みです」。

女性を美しく映し出す 高反射率・高品質のミラー

クヌギザの鏡は、質が高いことでも知られる。「物を映す」という機能は、どんな鏡でも変わらないが、特に女性の顔を映す鏡の場合は反射率が問題になる。反射率が違うと、肌の美しさも違って見えるため、化粧品関連に使われるミラーには非常に重要。高反射率を実現するには、まず銀引き製法でなければならぬ。国内外の有名化粧品メーカーが、こぞ同社の鏡を採用する理由はそこにある。

「銀引き製法での製鏡には、特殊技術のノウハウが必要です。銀引きは化学反応ですから、気温や湿度が違えば製品の向きも変わります。いつも同じ品質の鏡を作るのは技術者の腕なのです。技術は伝承が必要。技術継承の取り組みも進めています。高い技術でフランスよく作られた鏡は、腐食検査等にも良い成績を示す。過酷な環境下でも長く使え、対象物を美しく映す鏡は、ナノ単位の銀膜だからこそだ。技術面だけでなく、製品のチェックにも力を入れている。「化粧品用の

ミラーは、じっくりと見つめることが多いですから、少しの傷やゴミでも目立ってしまいます。製品は厳しく検査し、少しでも異物や傷、銀膜が均一でないものは省いています」。高品質な鏡を作るだけでなく、新たな製品開発も行っている。アメリカやヨーロッパのムーブメントである「無鉛」を実現した「エル・エフミラー」や、阪神大震災での経験をもちに開発した「割れない鏡」等、時代を映した鏡を作り続けている。

主な事業内容

化粧品用鏡・自
動車パニティミ
ラー・各種一般
鏡・薄型鏡の製
造・販売等



くぬぎざ 梶座寛之さん
代表取締役

Company Profile

株式会社クヌギザ

住所 / 〒544-0015
大阪府大阪市生野区巽南5-2-41

創業 / 昭和34年5月

設立 / 昭和44年11月

資本金 / 2,300万円

従業員 / 37名 (平成21年1月現在)

TEL / 06-6791-7877

FAX / 06-6794-0757



<http://www.kunugiza.co.jp/>